

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
1	歩行困難状況に陥りながらも受診を控えたため発見が遅れた肺癌患者	60	男	その他	離婚しているが妻と同居	7人	借家 アパート	離婚した家族と一緒に生活していた。 （元妻へ家賃として毎月3万払っていた）	非正規雇用	搬送時は退職されていた	就労収入本人	5万円以上10万円未満	下回る	無		無保険	国保証	無	有		救急搬送	1ヶ月	2ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）								自治体等への働きかけ結果と対応				
			病死			2024年4月30日をもってリサイクル業者を退職。協会けんぽに加入されていたが、保険証を返納している。 退職経緯：4月の初旬から突然歩行困難となり、排尿障害も徐々に発症。A市の病院へ受診し、当院への紹介となったが、経済的な問題や親族からの支援を得ることができない状況が続き、5月9日に当院へやっと搬送されてきた運びとなった。この際、脱退証明証がまだ会社から送られてきておらず、無保険状態という事もありSWが初期介入実施。会社から自宅に届く目処なども確認したうえで、届き次第国保加入手続きを行って頂ける事も確認。治療継続の方向となった。					受診時より脊椎が骨腫瘍により割れている状況にあり、また腫瘍が神経を圧迫している状況であることが画像診断で判明。しかし、数週間圧迫が続いてたことから、下肢麻痺の症状が固定しており、手術適応とならず。骨腫瘍が原発性ではないことから、精査の運びとなり肺腺癌を原発とした転移であることが明らかになる。しかし、すでに骨以外への転移もあり、化学療法への適応は無く、緩和照射を目的とした放射線治療が行われる。徐々に状態が悪化し、6月15日13時過ぎに逝去された。								国保加入については企業からの脱退証明発行がGWにて遅れている事情を考慮し、書類が届き次第、早期に国保加入の手続きを行って頂けることとなった。				

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
2	無保険による受診困難により発見の遅れた肺癌末期患者	50	女	独居	両親逝去 兄弟姉妹なし		借家 アパート		無職	8月で退職している	その他	5万円未満	下回る	無	保険料水通代電気代ガス代	無保険	生活保護	無	無	生活再建が困難であり、生活保護の申請を優先した	救急搬送	2ヶ月	10ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）								自治体等への働きかけ結果と対応				
			病死			成育歴：A市B区生まれ。両親は幼少のころ離婚。C区に住む祖母の家に住み高校まで卒業。父親はD区に勤め、ほとんど一緒に暮らしたことは無いとのことだった。 職歴：高校を卒業後E株式会社勤務。その後、系列の会社へ異動したが営業不振にて本人は契約社員として勤務することとなる。35歳頃から風俗も兼務。一度望まない妊娠があり、下ろしている。その後元々務めていた会社を辞め、以降風俗業にて生計を立てていた。風俗業に専念されたのは、借金の返済の為と本人から伺っている。 2024年8月風俗業を体調不良を理由に退職。以降無保険状態にて自身に医療を受ける資格が無いと思い込み受診されず。いよいよ自身の体調も悪くなり、C区へ生活保護申請に向かっている最中に倒れ、救急搬送に至った。					救急搬送されてきた段階で、皮膚、眼球共に黄疸強い状態。救急外来時の検査時に膵臓癌及び腹膜転移、肺転移が見つかったという状況。救急外来の医師からは予後半年から1年と10の原に説明されている。その後入院に至り、副腎、肝臓にも転移が見つかり予後は1か月程度に修正され日又は週単位という認識を医療スタッフは認識。入院後から背部痛が出現。肺癌浸潤が脊髄にも影響を及ぼしていると考えられた。 10/30保護課面談実施。本人は車いす全介助にて面談を実施。面談時に保護課担当職員から本人のキャラクターなのか、不明ではあるが、言動から障害を抱えている可能性について示唆あり。 11/5生活保護決定するも、状態が悪化の一途を辿る。翌日保護開始の面談が行われたが、この際には、意識が半覚醒状態であった。 11/7 16：24 眠るように息を引き取られた。								生活保護通報を搬送時点で行っており、保護課に早期保護決定依頼を行った。				

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
9	住民票が抹消されており、受診が遅れた胃がん患者	60	男	その他	内縁の妻	2人	その他	ウィークリーマンションで20年生活	非正規雇用		就労収入家族	20万円以上25万円未満	上回る	無		無保険	無保険		無	収入が基準を超えるため	その他	5ヶ月	1ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）						自治体等への働きかけ結果と対応						
	その他	他院にも通院歴なし	病死			A県出身。幼い頃に養子にもらわれた。実家はスーパーを営んでいた。父親は早くに他界。高校卒業、実家のスーパーに勤めたが倒産。A県には30歳頃までいた。家族とは疎遠なため、母が生きているか分からない。義理の弟は居ると思う。その後、B県→C県→D県と職を転々とした。D県の旅館は半年ほどで退職し、そこが国保に入っていた最後。住民票も移さず、病気もしなかったので保険証も加入しなかった。アパートを借りる初期費用が無かったため、E市のウィークリーマンションを借りて20年位生活している。同時期から内縁の妻と同居。派遣会社に登録し、冷凍食品の商品の入れ替えや、スーパーでのデモンストレーションなどを行っている。今も登録は残っているが、体調不良のため来る仕事を断っている。内縁の妻も同じ内容の派遣の仕事をしている。1年位前から胃痛があったが、食事は摂れていた。2024年4月頃から食事が摂れなくなり、仕事を断っている。8月頃から変なきり状態。住民票を取り寄せて国保に加入したが、今までずっとD県の住所が分からなかった。住所が分かる目処が立ったため、受診の相談をした。					9/18当院外来受診し、高度貧血で即日入院。内視鏡検査を行い、胃GISTの診断。当初は保険証が出来たら手術を検討していたが、その間にも状態が悪化。D県の住所が分かり住民票を取り寄せようとしたが、既に職権消滅されていた。新たに住民登録するためには戸籍謄本と附票が必要と言われ、A県に戸籍を取り寄せることにした。ただ、本人の身分証明書がないため、申請者を相談員にして委任状を付けて依頼。10/18、戸籍が届きE市に住民票の登録をし、国民健康保険に加入。加入日はH20年からになるとのことだったため、入院中の医療費は保険で対応。その頃にはいつ亡くなくてもおかしくない状態であり、本人も内縁の妻も家で看とりたい希望があったため、急遽在宅調整し、10/22に自宅退院。10/23死亡した。医療については内縁の妻が分割で支払うこととなった。						A県に戸籍を取り寄せる際、本人の言う本籍地が登録されている本籍地と違っていた（市は合っていたが、町名などが違っていたよう）。正しい本籍地が必要と言われたが、本人がそれ以外は分からないと言っており、本人の状態も良くないためなんとかならないか相談した。本籍地が間違っている通常戸籍は発行できないが、両親の名前がわかればそれで確認できると話あり、本人に両親の名前を確認して戸籍を発行してもらうことが出来た。						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
11	無保険で受診が遅れた胃癌患者	50	男	独居	父がC病院系列の老健入所中		持ち家		無職	無収入だが、不動産などを売却・貯金などで生活していた。	その他		下回る	無	保険料	無保険	国保証					3ヶ月	1ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）						自治体等への働きかけ結果と対応						
	その他	通院なし	病死			A市へ単身赴任中に母が認知症になりその後肺癌で死亡。兄がいたが夭折。家族は老健に入所している父親のみ。階段の上り下りが多い職場に転勤になったことで腰痛が出現。大きい病院の受診を職場から勧められ、B病院へ通院し、検査に異常はなかった。B病院で職場に出す診断書も書いてもらっていたが、作成してもらった診断書では休みは認められないと職場から言われ、最終的に無理失理職場復帰するか、退職するかを迫られた。自己都合扱いで2022年4月に退職をした。退職した時点で体力がなく、国保の切り替え手続きや失業保険の手続きなどに行けず申請を諦めた。受診退職してからは持っていた不動産を売却したり貯金を切り崩して生活出来ていた。2023年11月ごろより痛みがあったが、国保料の支払い（保険無しなら10割負担）が負担となり、受診を避けていた。					国保加入手続きと限度額の申請を行った。死後事務委任契約を行い、逝去後の自宅やバイクの売買を依頼。父親の保証人もお願いした。						入院時点で一千万程度貯金があり生活保護対象にならず。						

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
12	無保険で受診が遅れた悪性胸腺中皮腫・うつ病の既往がある患者	50	男	独居	妻が2年前に離婚し独居		持ち家	持ち家（ローンアリ）	自営業	自営のリフォーム会社で毎月40万程度収入があったが、受診時には体調を崩し、次の収入のあてはなかった	就労収入本人	25万円以上	上回る	有		無保険	国保証						6ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
			病死			自営のリフォーム会社を18歳～今の仕事、父から引き継いだ。作業中もマスクせず業務をしていた。土建国保に入っていたが、2年前に鬱で滞納し、無保険となった。以後、病気になるなかったため国保にも加入しなかった。体調が悪くなり、A病院で無料低額診療をしていると知ったため受診しようとしたが、受診しようと思った当日が休診日だったため、他の病院で無料低額診療をしているところを探し、B病院を受診した。					仕事は直前まで行っていたが息切れや眩暈が咳が出現し、仕事先の人から嫌な顔をされたが、保険証無く市販の咳止めを飲んでた。どうしようもなくなり受診した。2年前頃にうつ病になり仕事が出来ない時期があった。同じ頃に離婚している。毎月養育費で5万8000円払っていたが払えなくなった。仕事をしていた時は年収310万あり自宅ローン月7万の問題無く払っていた。4月27日初診時検査で中皮種の疑いあり、大学病院へ紹介した。B病院の受診は初診時の1日のみ。自営業で、働けていれば毎月40万程度の収入があり、病状によっては、本人は引き続き仕事を続けたいと思っていたが、症状改善せず断念。以降の収入の予定はたっていないかった。無低診の申請希望あり対応。大学病院転院後もKPの姉と連絡を取っていた。転院先の病院でアスベスト関連の疾患と判断されアスベストの給付金の申請をする事と聞いていた。抗癌剤治療を行っていたが、PS低下し対症療法に切り替わり、大学病院にて8月2日に逝去。							受診後に給料40万程度はいる予定があったこと、受診時に仕事が出来れば生保申請したくないと言っていたため生活保護につながらず。ある程度は姉の経済的な支援も見込めていた。国保加入と限度額申請の手続きをしていた。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
16	無収入、無保険で受診が遅れ、わずか28日で亡くなった脳頭部癌患者	60	男	その他	友人宅へ居候		知人宅	知人宅で生活していた。	無職		その他		下回る	無		無保険	生活保護		無		その他		
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	病死					A県出身、本人はB県で妻と生活していたが、離婚し、一時実家へ帰っていた。その後知人宅やネットカフェを点々としながら定職には就かず、日雇いの労働をしながら生活していた。最後に日雇いをしたのは2023年秋から夏頃。その後は知人宅に居候していた。知人とはインターネットのチャットルームで知り合い、生活費を分けてもらい、家事をしながら生活していた。親と姉がA県に住んでいるが、約10年近く連絡は取り合っていない。 C病院患者サポート室に本人から電話がかかってきた。「無料低額診療事業があると聞いた。受診したい。背中の上が痛い、尿が茶色。友人からは黄疸があると聞いた」と。夕方だったので、翌日すぐ受診できるよう段取りをした。受診時、SWと話をした際には顔は黄疸で黄色になっており、腹水も溜まっているようだった。本人申し訳なさげな様子ではあった。検査を行い脳頭部癌による閉塞性黄疸で当院では対応困難との判断となり、三次救急を行っている病院へ入院の相談をかけることになった。本人は知人に迷惑がかかる、行きたくないと言えられていたが、お金の心配はしなくてよいことを伝え納得し、入院となった。当初は無料低額診療事業での相談ではあったが、知人宅で生活はしていたが収入もなかった為、生活保護の通報を行い、三次救急病院に申し送りを行った。					入院後精査・治療を行うも、脳頭部癌、肝転移、肺転移、リンパ節転移、および腹膜播種だった。終末期医療でケアホスピスに行くまでの間、ワンクッション目的で当院に転院となった。入院後本人よりSWと話をしたかったと。どうやら当院受診時に事実と異なることを伝えてしまったこととでも気づいているようだった。もう長くないということもわかっているようで、人に迷惑をかけたくな…と何度も言っていた。生活保護受給は決まったことを伝えると安心した様子だった。知人と面会し、入院から10日後本人は亡くなった。 本人が亡くなった後、初めてA県に住む姉から連絡が入った。弟を看取ってもらいありがとうございましたと。弟の様子と支払いについて聞いていたとのことだったので、病状やSW面会時の状況や誠実な人柄であったことを伝えようと、姉は泣きながら「ありがとうございます」と。また生活保護を受けたいと医療費がかからない旨も伝え、とても安心しておられ、茶髪に付され、A県に帰られた。					特記なし							

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 （手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
19	社会からの孤立で受診が遅れたがん患者	70	女	その他	知人男性と同居	2人	知人宅	約30年、知人宅で居候生活	無職	無年金	その他		下回る	無		無保険	生活保護		無		地域包括支援センター	不明	9ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	その他	過去に受診歴あったが、定期通院は必要なかった。	病死			家族から絶縁されホームレス状態であったが、30年程前に知り合った知人（内縁の夫）と長年同居していた。本人無年金で無収入であったため、内縁の夫が面倒みていた。受診の1ヶ月程前に転倒し、徐々に動けなくなり、1週間前から食事摂取も困難となったため、近くの開業医に知人が電話で相談したところ、地域包括に相談するよう言われた。地域包括職員が訪問すると、本人動けない状態で救急搬送。入院となる。					当院に入院後、内縁の夫との世帯分離で本人のみ帰来先無しで生活保護申請した。検査の結果、S状結腸癌の切迫閉塞の状態であり緊急でステント留置した。その後、人工肛門の手術を本人にお勧めしたが手術を拒否された。徐々に癌が進行し、入院275日目に死亡された。							入院後生活保護申請した。					
事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 （手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
20	非正規労働で収入が不安定で受診が遅れた患者	50	男	夫婦のみ	内縁の妻と同居	2人	借家アパート	7年前から現在の借家で内縁の妻と生活	非正規雇用		その他	5万円未満	下回る	有	保険料住民税家賃	国保資格証明書	国保資格証明書	無	有	入院分から無低診で対応	その他	不明	1ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	その他	過去に受診歴あったが定期通院は必要なかった。	病死			A県出身で電気関係の仕事で7年ほど前にB県にきた際に新興宗教の教祖の話に感銘を受けB県に移住。そこで知り合った女性と同居生活を始める。日雇い労働をしながら生活を維持していた。当院を受診する4か月程前に他院で進行直腸がんの末期状態と診断されていたが、経済的な理由（仕事できず収入減）、宗教上の理由で治療せず。食事摂取も困難となり、崇拝する教祖から当院の受診を勧められ当院に救急搬送となる。進行直腸がん、腹膜播種、多発リンパ節転移、高度貧血にて入院となる。					入院時保険証なく（資格証明書になっていた様子）、役場に相談いただき短期保険証を発行された。入院後、緊急透析、腎臓造設をおこなったが、症状は徐々に進行。緩和ケア病棟に移られ、入院後39日目に亡くなられた。医療費については無料低額診療で対応した。							特になし。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
21	退職後国保未加入、一人で市販薬で痛みに耐えていた肺癌の患者	70	男	独居		1人	借家 アパート	家賃23250円	無職		年金収入 本人・その他	5万円以上 10万円未満	上回る	有		無保険	無保険		有	入院後MSWより紹介し、生保申請日以前のものについて利用の承諾を得た。	外来	2ヶ月	1ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	その他	直近数年間未受診、かかりつけ医なし	病死			A県出身で高校卒業後、就職。食品会社5年、自動車部品工場10年、運送会社などいろいろな仕事をした。「若い頃は、ゴルフ、ボーリングも少しかじったな。」と言い、趣味といった趣味はないが、将棋が好き。病院にはほとんどかかったことがない。会社勤め引退後、国保加入手続きせず。婚姻歴なし、姉がいると話すも10年来疎遠にて生死不明。自宅家賃は遅滞なく毎月不動産屋に手渡しで支払いしており、数少ない社会的繋がりであった印象。食糧を買ってきてくれる友人はいたと話すが、入院後登場せず、本人からも連絡先明かされず。2024年2月中旬より、食欲低下、固形物が喉を通らなくなり、おかゆ等を食べていた。体重は15kg減。徐々に関節痛が出現し、市販の感冒薬を飲んで粉らせていたが、徐々に衰弱し、本人が救急搬送要請、入院。					本人は2週間程度で退院するつもりで入院。入院後も衰弱が強くなり、退院できないことを悟ると、家賃や光熱費の支払いをしなければとMSWに自宅へ行き、各種振り込み用紙を持参するよう依頼された。自宅アパートの取り壊しも決まっていたようで、引越しの準備をしなければ、と話すなど、病態と本人の認識が一致しないやりとりも見られた。自宅には10年程度昔の借り入れ金督促状（約500万円）もあり、これまでの人生を垣間見た。衰弱する中、生活保護申請と無料低額診療事業活用への同意をされ、申請書にサイン。本人の預金残を引き出し、それを光熱費や当院医療費にあてようとするMSWに託された。生活保護の要否判定結果を待たず、逝去。生活保護も非該当となったため、医療費については本人所持金で足りない分に対して無料低額診療事業の適用とした。							2024年4月4日 入院より1ヶ月経過しないため在宅基準での生活保護基準満たすと判断し、本人同意の上生活保護申請。要否判定前4/10に本人逝去。その後市役所より「年金収入があるため生保非該当」との電話連絡あり。判定基準が入院基準であったのか、と問い合わせしたが、詳細の開示はされなかった。（申請時に、退院の目的がたない状況では入院基準での要否判定となることがある、と申し添えはあった。）身寄りがいない方にて、逝去後のお引き取りを墓地埋葬法の適用となり、福祉事務所へ対応いただいた。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
23	経済苦で医療費の支払いを滞納し、自己中断となった舌・咽頭癌患者	70	男	その他	離婚した夫婦とその子どもも世帯（子が18歳以上）	4人	借家 アパート	家賃8万円	無職		年金収入 家族	10万円以上 15万円未満	下回る		保険料	国保資格証明書	国保証	無	有	2024年4月10日～ 2024年10月9日 低額10割（入院分）	外来、行政	1年11ヶ月	
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	中断		病死			本人はA市出身で、小学生と中学生の時に両親を心臓発作とアルコール依存症で亡くし、歳の離れた異母兄弟の家族と同居。中学卒業後にトラック運転手として働く。2016年に舌癌を専門科で指摘され、商業施設の送迎バスの仕事をしながら放射線治療を行っていた。前妻とは平成13年に、本人のトラックの自営業が立ちゆかなくなり、持ち家を手放さなければならなくなったのをきっかけに離婚。離婚後、前妻は娘2人を連れて本人の元を離れたが、前妻の収入だけでは娘2人を養う事が難しくなり、本人が借りた今の家で再度同居を始めた。受診時も、本人・前妻（70）・長女（43）・次女（38）の4人で暮らしていた。長女は精神疾患あり、次女は難病をかかえている。前妻・長女は就労なし。次女は2024年3月から仕事を始めたばかりだった。前妻と長女の年金合わせて約13万円で生活しており、3月13日時点では生活保護基準を下回っていた。家族関係は希薄で、同居していても娘達とは会話がなかった医療経過としては、2016年～2017年に舌癌に対して専門科のある病院で放射線治療を実施。2020年10月にリンパ節転移、2021年に右肺下葉に転移しており、その時点で予後厳しい見立てであった。医療費の未納があり、検査代がかかることを危惧して、その後2022年4月に自己中断となっていた。2024年3月13日に同居の前妻から、本人が頭と歯を痛がっているがお金がないとのことで相談があり、受診に至った。					MSWから、未納があったかかりつけの医療機関へ受診相談をした。本来であれば毎月2万円を分割で納めてもらうが、支払い困難なことを承知の上での診察は倫理的に難しいとの返答だった。ひとまず、当院でできる検査を一通り行い、かかりつけ医療機関から当院に出向している医師に可能な治療方法の見立てを立ててもらう方向で話を進めていた。その矢先に4月10日に前妻から連絡があり、救急搬送されて当日入院となった。医師からの病状説明では、予定1ヶ月～3ヶ月と伝えられた。自宅退院も見越して制度活用を検討していたが、介護保険は保険料滞納があり、ペナルティ3割負担だった。生活保護も検討していたが、次女が3月から就労を開始したため世帯収入が生活保護基準を上回っていた。5月21日に、遺品の整理をしたと本人の希望で、看護師・PTが付き添っての自宅へ外出をした。その後は、本人の希望もあり医療特化型のサ高住への退院を目指し、入所と同時に本人単独世帯で生活保護を申請する方向で相談を重ねていたが、6月3日に状態悪化し、家族に見守られるなか永眠された。							〈介護保険〉 2024年4月15日に、市役所へ介護保険料滞納があるか問い合わせをした。滞納額は21万8000円で、その内介護保険申請に必要な償還払いの該当額は11万7470万円だった。 ペナルティが付いており、サービス給付 3割負担となっていた。生活保護申請か市外転出を行えばペナルティ無しとの回答だった。 〈限度額適応認定証〉 2024年5月17日に前妻・長女と国保課で限度額証発行の相談をした。令和4年分のゼロ申告をしていないので限度額証は一般のままとの回答。令和5年分のゼロ申告をして、滞納額を少しずつ納めれば8月分から限度額証を発行できる可能性あり。限度額を取得して退院先の選択肢を広げることも視野に、滞納分は3000円ずつ支払うこととなった。 〈生活保護〉 療養型病院か医療特化型のサ高住での療養に向けて、本人単独世帯で生活保護の申請が可能か市と相談していた。①転院先の病院・施設に住所をおけること、②施設であれば生活保護基準内の入所費であることの2点が確認できれば、本人単独で生保申請可能との回答だった。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別 受診前	保険種別 受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、 健診異常指摘等 から受診まで	治療期間
25	資格者証で医療費の支払いが困難なため、 受診が遅れた肺癌患者	60	男	その他	雇い主と同居	2人	借家 アパート		年金受給者	給料は歩合で、 雇い主が家事等を行うことで支払い 代わりとしていた	年金収入 本人・その他	5万円未満	上回る	無	保険料	国保資格証明書	生活保護	無	無		行政	1ヶ月	1ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	その他	医療機関未受診	病死			雀荘に勤務し、主に店番をしていた。コロナ禍で経営が上手くいかず、給料の支払いが難しくなった雇い主からの提案で、2021年から雇い主と同居を開始する。給与支給ができない代わりに、雇い主が家事・金銭管理を担っていた。両親は死去、県外在住の妹とは疎遠、元妻とは離婚後から音信不通のため、親族の関わりはない。2022年から本人が年金（82,000円/2ヶ月）を受給するがコロナ禍からの生活苦は変わらず、市役所へ生活保護申請を相談。しかし2人世帯では、世帯収入が生活保護基準を上回っており、申請には至らなかった。 2024年1月上旬から咳と呼吸苦の症状がみられるが、保険証が無い・医療費の支払いが困難なことを理由に市販薬で様子を見ていた。数週間経っても症状は改善せず、食欲低下もみられるようになったため市役所へ相談。当院の受診を勧められ、1月19日に受診。胸水貯留による呼吸不全、精査目的で同日入院になった。					胸腔ドレーンを留置、検査にて癌細胞が検出された。肺癌の疑いが高く、他器官にも転移している状態。本人へ病状説明を実施し、DNAR方針となる。2月13日に逝去。							受診された際に、市役所の国民健康保険課へ保険証発行について相談するが「資格者証が出されている。保険料の滞納もあるため、本人が窓口に来ないと何とも言えない」との返答。受診時には酸素開始しており、窓口に行ける状態では無いこと、入院治療が必要なことを説明するが返答は変わらなかった。治療後に仕事復帰できない可能性が高いこと、介助量の増加が想定されることから本人単独で生活保護申請を相談。1月22日に市役所生活保護課職員と面談し、生活保護申請が受理された。後日、課内で検討があり、職権による保護が決定した。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
26	低年金で生活、認知面も低下し、いわゆる「ゴミ屋敷」状態に	70	男	独居			持ち家	古い親世代からの家	無職		年金収入本人	5万円以上10万円未満	下回る	無	水道料金 電気代	後期高齢者短期保険証	後期高齢者短期保険証		無		その他		
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	治療中		病死			数年前から認知面低下あったよう。2年前の母の死からさらに低下したもよう。セルフネグレクト状態になり、収入も本人の年金（5-6万円）のみになってしまった。何とか通院はされていた。					2023年12月～しだいに動けなくなり、兄妹も心配したが、関りを拒否。しだいに痩せてきて、電気も止められてしまった。自宅にて倒れていたところを妹が発見して、2/5入院、その後、2/11亡くなられた。							特になし					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
27	「間に合わなかった」支援	70	男	独居			持ち家	古い家、すきま風だらけでお風呂をわすのに相当の時間を要した	非正規雇用	新聞配達	就労収入本人 年金収入本人	5万円以上10万円未満	下回る	無		後期高齢者短期保険証	後期高齢者短期保険証		無	すぐに生保申請	外来		5年
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	治療中		病死			元々料理人だったよう。60代で料理の仕事を終え、ここ数年は早朝の新聞配達の仕事をしていた。新聞配達は30年やっていた。2023年から猫を飼いだして「すり寄ってくるのがかわいい」と癒しになっていた					持病の狭心症が悪化してきた。大動脈弁狭窄症重度とされ、医師より何度もより精密な検査や手術もすすめていたが「お金がないし新聞配達を休めない」と。ようやく2月下旬生保申請し、専門病院受診でき、検査もすませ、4/25手術前検査の日に受診せず。自宅で亡くなられていた。							SWに外来から相談あったのが2月中旬。すぐに行政連絡し、本人とも連絡。生活保護申請に至った。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別 受診前	保険種別 受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、 健診異常指摘等 から受診まで	治療期間
28	「間に合わなかった」 支援	80	男	二世帯三世帯同居	本人と長女・三女	3人	持ち家	古い家、すきま風だらけでお風呂をわすのに相当の時間を要した	無職	新聞配達	年金収入本人	10万円以上15万円未満	下回る	有		後期高齢者短期保険証	後期高齢者短期保険証		有		共同組織加入者	2ヶ月	
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	中断	お金なく中断	病死								生保すすめるも長女が拒否。入院治療は継続とし、一旦無低診利用。その後何度か面接するが、申請に至らず4/17亡くなっている。												

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別 受診前	保険種別 受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、 健診異常指摘等 から受診まで	治療期間
29	「コロナ禍」の犠牲に	70	男	夫婦のみ	妻は海外に出稼ぎに出ていた	2人	持ち家	古い家 エアコンなし ゴミ屋敷状態	無職		年金収入本人	5万円以上 10万円未満	下回る	有	保険料 住民税 家賃 電気代 ガス代	後期高齢者 短期保険証	後期高齢者 短期保険証		有		その他	2ヶ月	
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	中断		病死			4人兄弟の末っ子で、兄弟はみな遠くに居住。妻と20年前に結婚し、A国国籍の方。妻はスナックを経営していたがコロナ禍で経営が立ちゆかなくなり、貸付制度も利用した。その返済が大変な上、A国の母の体調も悪くなりA国に出稼ぎに行っていた。3ヶ月に1度帰国し支払いをしていた。					2023年1月 前立腺がん・転移で他院をにて治療を受けた。 2024年4月～再燃していた。寝たきりとなっていた。 妻が帰国しその様子をみて、村の包括へ相談、当院で訪問診療し、入院となった。 熱中症で倒れており、お金がなく食べ物を買っていなかった。 すでに数日たっていたのか床ずれができていた。アルコール多飲傾向はあったよう。 6/26初診。7/5入院。							村役場がすぐに医療につなげてくれた。					
事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別 受診前	保険種別 受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、 健診異常指摘等 から受診まで	治療期間
34	経済的に困窮し、 医療・介護を諦め、 病状が悪化した患者	80	女	二世帯三世帯同居	次男との二人暮らし	2人	借家 アパート		年金受給者		年金収入本人	5万円未満	下回る	有	その他	後期高齢者 短期保険証	後期高齢者 短期保険証	無	無	相談のみ。 加入していた 生保保険料で 医療費の支払いは可能だった	その他	不明	3ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	治療中		病死			生育歴は把握できず。 他院でかなり前から高血圧の治療を行っていた。2020年に腰椎圧迫骨折。他院の整形外科も通院していたが、アパート3階の昇降が困難で、2023年に整形外科は終了。介護保険サービスを開始しデイサービス、訪問リハを利用したが、良くならないという理由で全て断った。同居の次男が介護離職をし、本人の介護者となったことで、閉じこもり状態になってしまった。2024年1月自宅で転倒し、当院に救急搬送され、胸骨骨折あり。2月には要介護2から5になった。3月発熱で当院受診。尿路感染症、仙骨部の褥瘡は黒色壊死をおこしていた。骨粗しょう症治療中断のサルコペニアもあり。在宅介護の調整も必要で入院に至った。					入院後、生活状況の把握をしていった。持参薬確認すると、服薬も出ていなかった。主治医より、骨粗しょう症の治療中断後に動けなくなり、転倒、骨折、褥瘡等、次々に状態が悪化していった経過を指摘。同居の次男が一人、介護を背負い、誰にも相談出来ない状態になってしまっていた。他県に住む、長男、長女にも来院してもらい主治医から状況を説明した。全身機能の低下となつてからの治療であり改善が難しく経口摂取も困難となっている事、次男が介護離職をし、経済的に追い込まれ、介護や治療を諦めてしまつて可能性が高い事を共有した。経済状況は本人の年金が月1万。次男は介護の為に退職したため生活費を工面するためにキャッシングを繰り返し、かなりの債務がある事がわかった。次男は精神的にも追い詰められ、家族にもケアマネにも相談が出来ない状態だった。世帯分離をし、債務整理の相談、生活保護の申請同行を行なったが、生命保険の加入をされていた事から、わずかも、保険金を受け取りたいと家族の意向があり、生活保護の申請には結局至らなかった。延命は望まれず、食べれる物を最後まで食べさせてあげたい、本人が自宅に帰りたいという思いに寄り添い看護師の同行で短時間だが自宅に帰った。徐々に衰弱し亡くなった。							保険医療助成課に相談し、世帯分離後、限度額認定証の発行。すぐに発行してもらった。 生活困窮者自立支援での、次男の債務相談を行った。 生活保護の申請同行。申請は出来たが家族が申請を望まなかった。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
37	無保険で身体の限界まで受診を控えていた肝硬変の30代の患者	30	男	独居		1人	借家 アパート		自営業		就労収入本人	5万円未満	下回る	有	保険料 家賃 その他	無保険	国保証	無	有	R6.8.1～ 無料低額診療 事業開始 R6.9.27～ 生活保護 受給開始	その他	不明	3ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	治療中		病死			母はものごとろついた時からおらず、父との生活。中学生からは祖母の家に住んでいたが、中学卒業後、母が現れ、同居をはじめた。しかし、再度、母がいなくなってしまう。父に頼り一人暮らしを始め、建築関係、測量、ファミリーレストラン等、転々と仕事をした。20歳になり、自営で建築業を始めた。婚姻歴は2回、離婚している。子はいないが音信不通。 頼れる家族は父しかいないが、父も同じ建築関係の職人で生活には余裕がない。コロナ前までは仕事が順調だったが、コロナ後、仕事が激減。体調不良で仕事も出来なくなり、人に任せる事で給料支払いの捻出等に事業資金として借金が増え続けてしまった。建設国保の保険料滞納により、無保険になった。食糧も手持ち金もない状態となり、周囲の人から、黄痘を指摘され受診相談に至った。					アルコール性肝障害、肝硬変、貧血、痔出血、低NA、低Kあり。高度の貧血で入院での治療が必要な状態ではあったが、無保険である事、医療費の支払いが困難な事、自営業で現場に迷惑がかかる事を理由に入院をしぶっていた。職員の関わりで、保険証、限度額認定証を取得。無低診の申請も行ない、仕事の調整もしながら、入院となったが、病院食を受け付けず、喫煙や間食、孤独感等から入院生活になじまなかった。輸血をするために短期間の入院、外来受診を主治医の説得で、何度も繰り返していた。一緒に仕事をしている父親に、何度も主治医から、治療の必要性の説明も行ったが、理解をしてもらえず、体調が悪い中でも仕事に行っていた。本人からの倦怠感のSOSが主治医に連絡が入った段階では、体液貯留、貧血、肝硬変は著しく悪化していた。11月8日に主治医よりこれ以上の治療は望めないこと、せめて入院して安静にする事しか対処療法はない事を説明し、入院となり、緩和治療を施し11月14日に亡くなった。							無保険については市役所へ事務次長とMSW同行で出向き、保険証、限度額認定証の相談を行なった。 病状、経済状況の説明を行ない、受診当日からの保険証を取得。限度額認定証についても、支払いゼロで対応してもらう事が出来た。また債務については生活困窮者自立支援につなぎ、生活保護の申請に至った。					
事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
38	生活保護廃止、治療中断により病状が悪化した路上生活者	70	男	独居	路上生活	1人	その他	転居を繰り返し、最終的には屋外で路上生活状態だった	無職		その他	5万円未満	下回る	無		無保険	生活保護		無		救急搬送	1年	8ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	中断		病死			婚姻歴なし。両親はすでに死去し、兄弟もおらず、身寄りなし。 A市で出生したが、小中学校はB市。中学卒業後に就職し、16～24歳まで0県へ移住。その後は職を転々とし、A市に戻り12年間過ごす。A市で生活保護を受けることになるが、「悪の組織に追われている」という妄想・幻覚などの精神症状があり、逃げるように転居を繰り返していた。（12年間で8回転居） 役所に本人から「生活保護をやめたい」と言い、家を飛び出してそのまま消息不明となり、R6年1月で生活保護廃止。2年前に心臓弁膜症の手術後も治療中断、前立腺癌も治療拒否し2年間放置していた状況だった。（2022年D病院で大動脈弁狭窄症・前立腺がんを指摘されるも治療拒否。2023年1月に心不全でD病院入院し、1月30日に手術施行したが術後の経過が悪く、退院は4月6日だった。その後、外来通院していたが、8月3日の予約をキャンセル。以降、来院は途絶えた。） 路上で寝袋で寝起きしていた状態だったが、スーパーで倒れて通行人が救急要請をして当院受診となった。					入院後は意識もあり多弁だったが、入院3日後に急変し死亡した。							住所不定であり、行路者として生活保護申請を行った。死亡時は葬祭扶助を相談し、6日後に認められた。 入院時には、A市のケースワーカーへ問い合わせ以前の生活状況など情報提供をもらった。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
39	無保険で医療機関にかからず、重度熱中症で搬送翌日に死亡した土木作業員	50	男	独居	きょうだいと疎遠	1人	社宅	会社の寮	非正規雇用		就労収入本人	5万円以上10万円未満	下回る			無保険	生活保護		無		救急搬送	0ヶ月	0ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	中断		病死			本籍地はA県、15年前に実家を出て転々としていた。受診日の数ヶ月前から現在の土木作業の会社に入職したばかり。会社事務所の上の階（寮）に居住。西日本に姉が、東日本に男兄弟がいるが疎遠。衣類は全体的に汚染、臭も抜けている状態。受診日の前日から作業中に熱中症症状ありアイスノンで冷やしていたが、翌日外出中に路上で倒れ救急搬送。重度の熱中症から、腎不全と脳梗塞、気道感染症を起こしていた。					所持していた国民健康保険証は古いもので、無保険状態であり、所持金は2,888円のみ。本人に相談し、会社寮の住所地の区役所へ生活保護を申請。急性期病棟へ入院となるが、翌日に死亡された。生活保護の手続きを進めてもらい、葬祭扶助にて葬儀対応を行った。							区役所へ生活保護申請の相談を行った。会社の寮であり、家賃扶助が出ない可能性があることなど説明あり。仕事復帰ができない場合の、居住の確保についてや、自立支援センターや救護施設、生活ケアセンターへの紹介ができることなど説明があった。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
41	生保廃止後、受診抑制し死亡退院された上行結腸がん患者	60	男	独居	県外に姉がいるが音信不通	1人	借家アパート	県営住宅3階エレベーターなし	年金受給者		年金収入本人	5万円以上10万円未満	下回る	有	保険料水道料金電気代ガス代	国保短期証	生活保護	無	無		救急搬送、外来	1ヶ月	4ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	中断	生活保護廃止に伴い自己中断	病死			独居、両親は他界。姉がいるが音信不通。県内にいる親族とも絶縁状態。50代半ばまで営業職に従事。しかし勤めていた会社が倒産しその後職を転々とするも人間関係で長続きせず。就労収入がなくなり生活保護を受給。R5年に年金受給開始となり、保護費と年金基準額が同等であったが本人が生活保護を受給する意思を示さず保護廃止となる。生保受給中は炊事をしていたが、最近ではスーパーで惣菜を購入する生活だった。2023年夏には食べるものがないと公民館に駆け込み職員に食べ物を提供してもらったこともあった。包括支援センターも訪問していたが、持っていた食料物資を受け取らず、訪問を拒まれる一面もみられていた。受診前はほとんど食事を食べられておらず。固定電話も携帯電話も解約し地域との繋がりは希薄。受診1ヶ月前から腹痛や腰痛を繰り返していたが受診抑制。しかし痛みで眠ることも食事も食べることができず公衆電話で自ら救急要請され当院へ搬入。大腸癌の疑いあり、精査を勧められたが医療費を気にしておられたため外来Nsより介入依頼。医療費相談に介入することで入院同意され、同日生活保護申請を行った。					精査の結果上行結腸癌ステージⅣ、多発肝転移、リンパ転移が判明。抗がん剤治療を計画していたところ「病院ではゆっくり休めん、帰らせてほしい」と自己都合で退院となられたが、所持金が数百円。ふらつきもみられ歩行も数m歩けば休む状態。次回年金支給日まで日があり、ライフラインも止まっていたため市役所に同行し生活福祉課に対応を相談。生保費を前借し食料調達と次回受診時の移送費を認めてもらう交渉をし、タクシーを手配し帰宅。包括支援センターと訪問看護に介入依頼し訪問をしてもらうよう調整したが、退院翌々日に在宅生活困難のため、隣人に救急要請を頼み再度入院となった。再入院後は生保受給が決定。しかし年金収入もあったため、自己返還金が発生していた。周囲に迷惑をかけたくないとの思いから家賃や入院費、生保への返戻金はしっかりと支払われる性格で「せつかく助けてもらったのだから治療し生きていきたい」と話され、上行結腸癌原発切除術を施行。その後抗がん剤治療を1クール行ったところで呼吸困難感が出現し酸素療法等行うも食欲不振も出現。経口摂取困難となられ、受診から4ヶ月弱で永眠された。葬儀は葬祭扶助で執り行われた							生活保護申請は決定。保護決定の前に生活保護費の前借や移送費を認めてもらうなど協力的だった					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
49	無保険で入院されたアルコール依存症患者	50	男	独居		1人	借家 アパート		無職					無		無保険	無保険		無				0.5ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	中断		病死			おとなしい性格であった。高校まで卒業。高校卒業後、就職したが、長く続かず転職を何度もしている。お酒に走り患者母へお金を催促するようになった。8月末から倦怠感と食欲不振あり。アルコールは飲み続けていた。 2019年アルコール肝障害でアルコール治療目的で患者母がかかりつけに紹介。医師から他院へ紹介され、禁酒治療をすすめたが、本人が希望せず禁酒指導だけで終わっている。退院後はかかりつけにフォローをすすめているが定期受診はされず、痛風治療などで数回受診しただけ。 2023年4月に受診した際にも肝障害認められたため禁酒をすすめるもそれに降かきつり受診なし。少し前まで仕事をしていたが当院受診直近で退職しており、退職金が9月10日に60000円程入金されていた。					9月6日倦怠感で動けず心配した母が救急要請。アルコール性肝硬変と低ナトリウム血症でHCU入院。しかし、入院当初から意識不明瞭であり会話困難な状況であった。患者母から医療費相談あったためMSW介入。通帳や印鑑など本人の貴重品の所在が不明。収入を証明するものとしてあったのは会社から自宅に送られていた退職金の金額と振り込み時期が記されたもののみ。通帳や印鑑などは自宅に見当たらなかったが、おそらく車の中ではないかと母より話あり。元務めていた会社へ連絡し患者の様子や車が会社の敷地に置いたままになっていないか等聞いたところ、仕事をしていた時もアル中のような様子だった、車は会社にはおいていないとの返事あり。患者の収入状況わからないため、国保加入し保険証を発効をすすめ、今後の患者の回復に合わせて患者から情報収集し、経済的に支払いが可能そうであれば家族の協力を得て支払いをしていただき、そもそもお金がない状況であることがわかれば生活保護申請と、保護申請までの無低や国保44条を想定した。 しかし、入院から7日目になっても病状は改善せず、ICUへ展りステロイド治療、血液透析を行っているが重症の肝炎となっており、呼吸も出来なくなったため人工呼吸器を挿管される。状況は変わらず、家族との相談の上、DNAR方針となったが即日死亡された。未払いの医療費については患者の妹と相談し後日支払いをして頂くこととなった。												

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
50	申請主義により手遅れとなった患者	50	女	独居			借家 アパート	借家と知人宅を行ったり来たり。家賃は、友人の世話をすることにより友人が拠出	無職	しばらくは遺産で生活をしていましたが、底をつき、友人の世話をすることにより家賃は友人が捻出	その他	5万円以上10万円未満	下回る	無		無保険	生活保護	無	無		救急搬送	1ヶ月	1ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	中断、他院	吐血したが、1回のみであり様子見ていた。	病死			中学生の頃から気管支喘息あり、2000年頃（30歳代前半）より近所の受診を中断。2008年には気管支喘息重症発作にて1日の入院歴あり、当院への通院を促されていたが、中断となる。その当時より、無職であり国民健康保険加入。両親、姉は他界（両親は病死、姉は交通事故）されており、身寄りのない状況であった。本人のKPはその当時より、この友人であり、宗教関係より交流が始まっている状況であり、共依存関係であった。曹段より友人宅と自宅を行き来するも、直近は友人宅にて過ごすことが多くなっていた。当院救急搬入の3日間よりしゃべらなくなった。意思疎通困難で左の喉嚨と頸呼吸であり、麻痺はないとのことだが、力が入っている状況で、友人が異変があると判断し、深夜に救急要請され当院へ搬入となる。 処置室にて吐血あり、以前にも少量ではない吐血があったが、無保険のため病院へは行かなかったとのこと。 肝酵素値悪く、アンモニアも高く、上部消化管出血も疑われ、救急搬入当初、入院を促されるも拒否されていたが、渋々入院了承され、入院となる。					入院後、徐々にレベル低下し、同日の早朝には挿管呼吸器管理となる。 無保険であり、人工呼吸器管理のため、本人の意思は確認できない状況にあったが、知人に生活保護申請の説明を行い、知人の了承のもと生活保護申請を代理にて行う。 上記に当たっては、今回の入院前に友人より生活保護の申請を、病院にかかることの話をしており、本人も生活保護の申請について前向きに検討していたとのことであり、本人の意向もあると推定し対応を行った。 入院同日に生活保護申請を受理していただき、その後生活保護が決定するも、1月31日に死亡退院される。身寄りもなく、本人の関係者は知人のみであったため、病院長での死亡の届を行い、葬祭扶助についても病院長としての手続きを行った。							生活保護の申請					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間	
51	保険料の滞納があり保険証を作成してもらえず、受診できなかった S状結腸がん患者	70	男	独居		1人	借家 アパート		無職		年金収入本人	10万円以上 15万円未満	上回る	有	保険料	無保険	無保険		有	全額免除適用	救急搬送	2年	1ヶ月	
	通院状況	通院状況詳細				死因				事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）					自治体等への働きかけ結果と対応				
	中断	病死				以前はパートで働いていたが、現在は年金暮らし。2年前から体調不良があったが保険料滞納があり、全額支払わないと保険証を作れないと言われたため病院受診できなかった。2024年2月5日、体調不良に耐えきれず、自分で救急搬送を依頼した。					救急搬入され、当院入院となる。入院時すでに息苦しそうでお話することが難しかった。生活保護申請しようとしたが、国保へ案内され、たらいまわしとなる。結果的に生保と国保が相談し、一部入会で限定付きの国保を発行してもらえたため、無料低額診療を適用とした。申請についてご自身で対応することは難しかったため、相談員が説明しながら確認をとり対応した。入院にて治療を行ったが、症状改善せず。病院での看取りとなった。													

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
52	住民票が抹消され、住まいがなくホテル暮らしをしていた患者	80	女	独居	夫/不明 長男/音信不通 次男/県内在住 長女/県外で同居していた	1人	その他	ホテル住まい	無職		就労収入家族	5万円以上10万円未満	下回る	無		無保険	生活保護	無	有		救急搬送	0ヶ月	0ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	その他	通院先なし	病死			元々、A県B市で生活をされていた。20年前に県外に移住し長女と生活。A県B市から転出したが転入手続きができていなかった。本人曰く誰かに書類を盗まれたと。県外でも仕事はせずに長女の収入で生活。若いころの経験で家族含め人間不信があった。高齢であることからそろそろA県に戻って生活しようということになり、2024年11月A県に戻ってきたが、住民票や保険証がないことで住まいの確保が出来ず、ホテルを転々として暮らしていた。11月いっぱいまでは長女も一緒にホテルで過ごしていた。生活費を工面する必要あってA県で仕事を探したが、県外のほうがお金を稼げるとのことで長女のみ県外へ戻った。毎日電話で安否確認はしていたとのこと。2/5（月）午前中にホテル職員と話をしていた際に体調悪そうにしていた。1時間後にホテルスタッフが本人確認した際にレベル低下あった為救急搬送となり、当院受診となった。					急性胆管炎、敗血症で入院。ICUにて治療開始。なかなか改善みられず、治療、検査の過程で胆管癌の診断。本人の全身状態や高齢者であることから胆管癌に対する根本的な治療が困難。入院当初はフルCPR希望であったが、積極的な延命治療は行わない方針となり、2/24（土）胆管癌、胆管炎、敗血症診断で当院でお看取りとなった。							救急受診した当日に無保険であることを確認、住民票がないことから保険証発行に時間を要する可能性があった。ご家族と相談し、まずは生活保護から申請することを提案し了承された。保護申請手続きはご家族にて対応。当院からも保護課へ申請について問い合わせを行い、申請進めていくことを確認した。					

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
53	無保険により受診が遅れた肝細胞癌患者	60	男	独居	来院時は知人と同居		知人宅		無職						保険料	無保険	生活保護				行政	2ヶ月	1ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	中断		病死			当院内科受診　2018年肝炎特定疾患申請を案内以降来院されず 2024年3月保護係より本人が窓口に相談あり、当院受診。 5年前程に退職、その後無保険で通院せず。2年前より友人宅で生活。1〜2か月前から転倒繰り返し、食事食べれず、友人が面倒見切れなくなり、兄へ連絡、保護へ同行相談となった。					2022年5月　他院へ外傷性SAHで入院（歩道で倒れているところを発見され救急搬送）したが、経過観察必要となる翌日退院。 2024年3月25日保護係からの相談を受け、当院外来受診し、入院。 肝腫瘍、腫れ、胸水貯留あり。入院後コロナ罹患され徐々に寝たきりとなる。												

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額（手取り）	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別受診前	保険種別受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、健診異常指摘等から受診まで	治療期間
55	怪我をきっかけに働くことが出来なくなり路上生活を数年間続けていた。無保険で救急車で搬送され癌と診断され、入院後1ヶ月で亡くなられた。	60	男	独居		1人	その他	炊き出しを利用しやすい路上で転々と生活していた	無職		その他	5万円未満	下回る	無		無保険	生活保護	無	無		他事業所からの紹介・転院	不明	1ヶ月
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応					
	その他	救急搬送されるまで受診歴無し	病死			A地方出身。高校卒業後、B地方に出てきて建築業につく。55才時仕事中に右足首負傷。仕事を続けられなくなり、退職。退職後は少しの間労災給付で生活していた。57才の時路上生活となり、C県内の路上で生活。コロナ流行する前に、D市に移ってきた。以前の職場の同僚との交流はあったが、携帯電話の所持が出来なくなってからは連絡がつかず。 父は数十年前に永眠。母と妹は30年間音信不通、結婚歴無し。妹の携帯番号に電話したが、「現在使われていない」とのアナウンスありとながらず。2024年7月30日救急搬送し入院（他院）。入院先のMSWが本人と相談して生活保護申請する（以前に保護申請した経歴あり）。病状の受け止めについて：直腸癌で月単位との病状説明がされている。本人は延命、治療希望はしなかったとのことで、緩和医療への申込みが開始。MSW面談では病状について本人は「癌の診断。何もできる状況ではないと聞いた」、今後の生活について「僕は分からない。お任せします」と言われていたと。 8月16日当院緩和ケア病棟へ転院依頼あり、上記情報を聞取る。					2024年8月20日転入院、入院中に行政の路上生活者対象巡回相談員の面会あり、看護師が生活状況を聞取る。「日中は図書館で過ごしていることが多く、本もよく読んでいた。夜間は市役所の前の地下通路で8名くらいの他の生活者と共に過ごしていた。食事はコンビニの期限切れの物や、週2回の炊き出しには必ず来ていた。また週1回の衣類の提供や相談会にも来られていた。路上生活では話しかけてもほぼ返答がない人だったが、こんなに色々話をしてくれて驚いた。」 8月30日死亡、葬祭扶助の基準で火葬埋葬される。本人が連絡を取りたがっていた親族（妹）の連絡先は探しきれなかった。												

事例No	プロフィール	年代	性別	家族構成	家族構成詳細	世帯人数	住居	住居詳細	職業	職業詳細	世帯収入と経済状況	おおよその月額 (手取り)	生保基準比較	負債の有無	各種税金などの滞納状況	保険種別 受診前	保険種別 受診・入院時	国保44条	無低適用	無低詳細	相談・受診経路	自覚症状出現、 健診異常指摘等 から受診まで	治療期間	
56	無保険で救急搬送され入院。生活保護申請したが、預貯金があり受理されず。仮保険者証発行され退院。その後、再度体調不良あり、社会福祉協議会がフォローしたが、自宅で亡くなっていた。	40	男	独居		1人	その他	自宅だが 詳細不明	無職		その他	5万円未満	下回る			無保険	国保資格証明書	無	無		他事業所からの 紹介・転院	不明	0ヶ月	
	通院状況	通院状況詳細	死因			事例について（生育歴、職歴、受診経緯）					事例について（受診後の経過と転機）							自治体等への働きかけ結果と対応						
	その他	2週間前、 救急車で他院 搬送され入院し 10日後自宅退院	病死			2024年1月30日社会福祉協議会からの受診相談あり。2週間前の1月16日に家でうずくまっている所を発見され救急車で他院搬送され入院。9日後の1月25日に退院となった。入院時に国保未加入がわかり、入院先のMSWの支援で仮保険者証が発行。生活保護も申請したが預貯金がある為受理されず。退院して5日後の1月30日に社協職員が自宅訪問するとうずくまっていた状況あり、受診が必要だが医療費の心配が発生する可能性ありとのことで当院に社協職員からの受診相談が入った。					1月31日に社協職員自宅を再度訪問する予定とのこと。社協職員には、病状によっては入院した病院への救急搬送が必要ではないかと伝えた。同日社協職員から連絡あり。訪問したところ自宅で亡くなっていたとの報告を受けた。							当院では特にしていない						